

成績評価	<p>PBLの成績評価は、成果、SA、週報、活動実績、年間活動報告書等を参照し、PBLの活動及び成果に対する量及び質による評価（100点満点）と、コンピテンシー獲得度の評価（100点満点）から総合的に評価する。前者はPBL活動を評価するもので、後者は獲得したコンピテンシーという汎用能力の評価を行うものである。</p> <p>前者PBL活動の評価は、活動の質と量、及び成果の質と量の4つの視点で評価項目を定め、100点満点で評価する。また獲得したコンピテンシーの評価は7つのコアコンピテンシーごとに、0～5の評価基準を作成し基準の達成度により点数を付ける。活動の評価とコンピテンシーの評価項目や評価基準はPBLごとに作成する。</p> <p>評価は3名の担当教員で成績案を作成し、すべての教員によるPBL成績判定会議で審議し、確定する。</p> <p>プロジェクトごとの評価基準は、別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。プロジェクトは1年間通して行うが、成績・単位は半期（前期・後期）ごとに付ける。</p>		
教科書・教材	別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。		
参考図書	別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。		
獲得可能なコンピテンシー	獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	◎	
	継続的学修と研究の能力	◎	
	チーム活動	◎	
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	◎	
	ドキュメンテーション	◎	
	革新的概念・発想	◎	
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	◎	
	問題解決	◎	
	リーダーシップ・マネジメント	◎	
	ファシリテーション・調整	◎	

専攻名	情報アーキテクチャ専攻	必修・選択	必修	単位	6	学期	3-4Q
科目群	事業アーキテクチャ特別演習	科目名	事業アーキテクチャ特別演習 a2		教員名	小山、酒森、戸沢、松尾	
		(英文表記)	Advanced Exercises: Business Architecture a2				
概要	<p>1 年次では、知識とスキルを修得するが、これだけでは事業開発型の高度専門職人材（事業アーキテクト）として活躍することはできない。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力（コンピテンシー）が不可欠である。当科目では、事業アーキテクト養成の最終段階として、成長領域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL（Project Based Learning）型の演習授業を行う。前期の PBL 活動での知識・スキル・経験を活かし、次の段階への改善・発展を行う。</p> <p>各プロジェクトの内容は別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>						
目的・狙い	<p>当科目の履修段階では、以下の知識・スキル・経験等を有していることが想定・期待される。</p> <p>(1) 本学修学前から既に有している知識・スキル・経験  (2) 講義・演習型科目（1 年次）で修得した事業アーキテクトとしての知識・スキルと対象領域の現状・課題等  (3) 事例研究型科目で学んだ事業開発手法（事例研究・事業設計）</p> <p>これらの知識・スキル・経験等を活用・駆使して、PBL 型のプロジェクト演習を行うことで、事業開発型の高度専門職人材に期待される経験及び業務遂行能力（コンピテンシー）を修得する。各自が有している知識・スキル・経験は以下を想定している。</p> <p>修得できるコンピテンシー:</p> <p>(B1) コミュニケーション力 (レベル4) システム提案・ネゴシエーション・説得、ドキュメンテーション  (B2) 継続的学修と研究の能力(レベル4) 革新的概念・発想、ニーズ・社会的・マーケット的視点、問題解決  (B3) チーム活動 (レベル4) リーダーシップ・マネジメント、ファシリテーション・調整</p>						
前提知識 (履修条件)	事業アーキテクチャ特別演習 a1 の単位を取得していること。						
到達目標	上位到達目標						
	問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を牽引することができ、また関係者を指導することができるレベル。「PBL プロジェクト説明書」でのプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 4 以上（80 点以上）の評価を受ける。						
到達目標	最低到達目標						
	問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を適切に実行できるレベル。「PBL プロジェクト説明書」でのプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 2 以上（60 点以上）の評価を受ける。						
授業の形態	別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。学生自ら場所及び時間を決め、活動する。原則、フェイスツーフェイスでの活動であるが、必要であれば遠隔会議システム等のオンラインコミュニケーションでの活動を行うことがある。						
授業外の学習	別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。 原則として週に 9 時間以上の大学での授業活動のほかに、9 時間の授業外活動を 16 週間以上継続すること。授業外活動では、授業活動に必要とされる事前学修、またメンバーに分担された活動中の課題作業（調査、プログラミング、ドキュメント作成等）を行う。						
授業の内容	原則として、週に 9 時間以上、16 週間以上の活動を計画的に行う。 また、月 1 回の教員報告、週 1 回の週報（週間活動報告）提出、学期ごとの SA（Self-Assessment）提出を適切に行うこと。詳細は、別途配布する「PBL プロジェクト説明書」、4 月に開催される「PBL ガイダンス」を参照のこと。						

成績評価	<p>PBLの成績評価は、成果、SA、週報、活動実績、年間活動報告書等を参照し、PBLの活動及び成果に対する量及び質による評価（100点満点）と、コンピテンシー獲得度の評価（100点満点）から総合的に評価する。前者はPBL活動を評価するもので、後者は獲得したコンピテンシーという汎用能力の評価を行うものである。</p> <p>前者PBL活動の評価は、活動の質と量、及び成果の質と量の4つの視点で評価項目を定め、100点満点で評価する。また獲得したコンピテンシーの評価は7つのコアコンピテンシーごとに、0～5の評価基準を作成し基準の達成度により点数を付ける。活動の評価とコンピテンシーの評価項目や評価基準はPBLごとに作成する。</p> <p>評価は3名の担当教員で成績案を作成し、すべての教員によるPBL成績判定会議で審議し、確定する。</p> <p>プロジェクトごとの評価基準は、別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。プロジェクトは1年間通して行うが、成績・単位は半期（前期・後期）ごとに付ける。</p>		
教科書・教材	別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。		
参考図書	別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。		
獲得可能なコンピテンシー	獲得可能度合 (○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	○	
	継続的学習と研究の能力	○	
	チーム活動	○	
コ ア	システム提案・ネゴシエーション・説得	○	
	ドキュメンテーション	○	
	革新的概念・発想	○	
	ニーズ・社会的・マーケット的視点	○	
	問題解決	○	
	リーダーシップ・マネジメント	○	
	ファシリテーション・調整	○	

専攻名	創造技術専攻	必修・選択	必修	単位	6	学期	1-2Q
科目群	事業アーキテクトチャ 特別演習	科目名 (英文表記)	事業アーキテクトチャ特別演習 b1 Advanced Exercises: Business Architecture b1			教員名	池本、國澤、越水、 吉田
概要	<p>1 年次では、知識とスキルを修得するが、これだけでは事業開発型の高度専門職人材（事業アーキテクト）として活躍することはできない。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力（コンピテンシー）が不可欠である。当科目では、事業アーキテクト養成の最終段階として、成長領域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL (Project Based Learning) 型の演習授業を行う。</p> <p>各プロジェクトの内容は別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>						
目的・狙い	<p>当科目の履修段階では、以下の知識・スキル・経験等を有していることが想定・期待される。</p> <p>(1) 本学修学前から既に有している知識・スキル・経験 (2) 講義・演習型科目（1 年次）で修得した事業アーキテクトとしての知識・スキルと対象領域の現状・課題等 (3) 事例研究型科目で学んだ事業開発手法（事例研究・事業設計）</p> <p>これらの知識・スキル・経験等を活用・駆使して、PBL 型のプロジェクト演習を行うことで、事業開発型の高度専門職人材に期待される経験及び業務遂行能力（コンピテンシー）を修得する。各自が有している知識・スキル・経験は以下を想定している。</p> <p>修得できるコンピテンシー（別途設ける評価法（5 段階評価）でレベル 4 以上）：</p> <p>(B1) コミュニケーション能力 (B2) 継続的学習と研究の能力 (B3) チーム活動 (B4) 発想力 (B5) 表現力 (B6) 設計力 (B7) 開発力 (B8) 分析力</p>						
前提知識 (履修条件)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 22 単位以上（ただし、10 月入学で翌年当科目を履修する学生は 12 単位以上）を取得していること。</li> <li>・ PBL 履修期間は PBL 活動に専念することが期待され、並行して講義・演習型科目を履修すべきではない。修了要件を満足できるようにあらかじめ必要単位（28 単位）を取得することが推奨される。</li> <li>・ 事業アーキテクトコースの推奨科目を 5 科目以上単位取得済みであること。</li> <li>・ コース推奨科目のうち 3 科目以上は成績評価 4 以上が期待される。</li> <li>・ プロジェクト配属ルール及び履修条件の詳細は、別途配布する「PBL プロジェクト説明書」、1 月に開催される「PBL 説明会」を参照すること。</li> </ul>						
到達目標	<p><b>上位到達目標</b></p> <p>問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を牽引することができ、また関係者を指導することができるレベル。「PBL プロジェクト説明書」でのプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 4 以上（80 点以上）の評価を受ける。</p> <p><b>最低到達目標</b></p> <p>問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を適切に実行できるレベル。「PBL プロジェクト説明書」でのプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 2 以上（60 点以上）の評価を受ける。</p>						
授業の形態	<p>別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。学生自ら場所及び時間を決め、活動する。原則、フェイスツーフェイスでの活動であるが、必要であれば遠隔会議システム等のオンラインコミュニケーションでの活動を行うことがある。</p>						
授業外の学習	<p>別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p> <p>原則として週に 9 時間以上の大学での授業活動のほかに、9 時間の授業外活動を 16 週間以上継続すること。授業外活動では、授業活動に必要とされる事前学習、またメンバーに分担された活動中の課題作業（調査、プログラミング、ドキュメント作成等）を行う。</p>						
授業の内容	<p>原則として、週に 9 時間以上、16 週間以上の活動を計画的に行う。</p> <p>また、月 1 回の教員報告、週 1 回の週報（週間活動報告）提出、学期ごとの SA (Self-Assessment) 提出を適切に行うこと。詳細は、別途配布する「PBL プロジェクト説明書」、4 月に開催される「PBL ガイダンス」を参照のこと。</p>						

成績評価	<p>PBLの成績評価は、成果、SA、週報、活動実績、年間活動報告書等を参照し、PBLの活動及び成果に対する関与度及び貢献度による評価（各30点、合計60点満点）と、コンピテンシースコアシートによる教員評価と相互評価に基づくコンピテンシー獲得度の評価（40点満点）から総合的に評価する。</p> <p>最終評価は、主担当教員と、2人の副担当教員で成績案を作成し、全教員によるPBL成績判定会議で審議し確定する。</p> <p>前者はPBL活動を評価するもので、後者は獲得したコンピテンシーという汎用能力の評価を行うものである。詳細は「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。</p> <p>なお、プロジェクトは1年間通して行うが、成績・単位は半期（前期・後期）ごとに付ける。</p>		
教科書・教材	別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。		
参考図書	別途配布する「PBLプロジェクト説明書」を参照のこと。		
獲得可能なコンピテンシー	獲得可能度合 (◎ ○ △ -)	獲得可能な内容	
メ タ	コミュニケーション能力	◎	
	継続的学修と研究の能力	◎	
	チーム活動	◎	
コ ア	発想力	◎	
	表現力	◎	
	設計力	◎	
	開発力	◎	
	分析力	◎	

専攻名	創造技術専攻	必修・選択	必修	単位	6	学期	3-4Q
科目群	事業アーキテクチャ特別演習	科目名	事業アーキテクチャ特別演習 b2			教員名	池本、國澤、越水、吉田
		(英文表記)	Advanced Exercises: Business Architecture b2				

概要	<p>1 年次では、知識とスキルを修得するが、これだけでは事業開発型の高度専門職人材（事業アーキテクト）として活躍することはできない。実際の業務を成功に導くためには、経験及び業務遂行能力（コンピテンシー）が不可欠である。当科目では、事業アーキテクト養成の最終段階として、成長領域の現状から問題を特定し、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実際の業務に近いプロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し、さらにコンピテンシーを修得するために PBL（Project Based Learning）型の演習授業を行う。前期の PBL 活動での知識・スキル・経験を活かし、次の段階への改善・発展を行う。</p> <p>各プロジェクトの内容は別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p>
目的・狙い	<p>当科目の履修段階では、以下の知識・スキル・経験等を有していることが想定・期待される。</p> <p>(1) 本学修学前から既に有している知識・スキル・経験  (2) 講義・演習型科目（1 年次）で修得した事業アーキテクトとしての知識・スキルと対象領域の現状・課題等  (3) 事例研究型科目で学んだ事業開発手法（事例研究・事業設計）</p> <p>これらの知識・スキル・経験等を活用・駆使して、PBL 型のプロジェクト演習を行うことで、事業開発型の高度専門職人材に期待される経験及び業務遂行能力（コンピテンシー）を修得する。各自が有している知識・スキル・経験は以下を想定している。</p> <p>修得できるコンピテンシー（別途設ける評価法（5 段階評価）でレベル 4 以上）：</p> <p>(a1) コミュニケーション能力  (a2) 総合的学修と研究の能力  (a3) チーム活動  (a4) 発想力  (a5) 表現力  (a6) 設計力  (a7) 開発力  (a8) 分析力</p>
前提知識 (履修条件)	事業アーキテクチャ特別演習 b1 の単位を取得していること。
到達目標	<p>上位到達目標</p> <p>問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を牽引することができ、また関係者を指導することができるレベル。「PBL プロジェクト説明書」でのプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 4 以上（80 点以上）の評価を受ける。</p>
	<p>最低到達目標</p> <p>問題解決・事業開発の提案から遂行に関する各種の業務を適切に実行できるレベル。「PBL プロジェクト説明書」でのプロジェクトごとのコンピテンシーの評価基準で概ね 2 以上（60 点以上）の評価を受ける。</p>
授業の形態	別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。学生自ら場所及び時間を決め、活動する。原則、フェイスツーフェイスでの活動であるが、必要であれば遠隔会議システム等のオンラインコミュニケーションでの活動を行うことがある。
授業外の学習	<p>別途配布する「PBL プロジェクト説明書」を参照のこと。</p> <p>原則として週に 9 時間以上の大学での授業活動のほかに、9 時間の授業外活動を 16 週間以上継続すること。授業外活動では、授業活動に必要な事前学修、またメンバーに分担された活動中の課題作業（調査、プログラミング、ドキュメント作成等）を行う。</p>
授業の内容	<p>原則として、週に 9 時間以上、16 週間以上の活動を計画的に行う。</p> <p>また、月 1 回の教員報告、週 1 回の週報（週間活動報告）提出、学期ごとの SA（Self-Assessment）提出を適切に行うこと。詳細は、別途配布する「PBL プロジェクト説明書」、4 月に開催される「PBL ガイダンス」を参照のこと。</p>